

公表	児童発達支援事業所における自己評価結果
----	---------------------

事業所名	社会福祉法人ライフサポート協会じらふ長居		公表日	2026年 3月 4日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）**や写真、絵カードを積極的に活用し、視覚的な補助を行うことで、お子様が発達的に活動を選び、見通しを持って過ごせる環境を整えています。	トイレ付近の動線に死角があり、お子様同士が衝突するリスクがあるとの指摘を保護者より受けています。今後は安全確認できるよう職員の配置を再検討し、安全性を強化します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	玩具の配置を分かりやすく整理し、活動に合わせた専用の部屋を設けるなど、お子様が集中して活動に取り組めるよう環境を工夫しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		現在、第三者による外部評価は行っておりません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	領域（健康・生活・運動・感覚・認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）**に基づいた包括的なアセスメントを行い、個々のニーズに応じた「オーダーメイドの支援」を徹底しています	保護者の悩みに対し、共感だけでなく、より具体的に家庭でも取り入れやすい助言（5領域に基づく提案）ができるよう、支援の質をさらに高める必要があります
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	プログラムが固定化されないよう、「遊び」を通じた豊かな感性と創造性の育成に重点を置き、毎回新鮮な気持ちで取り組める創意工夫を継続しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		現在、施設外での活動機会は設けておりませんが、地域との繋がりは大切に考えております。代わりの取り組みとして、月1回の「子育て広場」や、ご兄弟も参加できる不定期イベントを開催し、交流できる場を提供しています。また、法人内の別事業所からの地域イベントなどのお知らせも、みなさまに共有させていただいております。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	LINEを活用した迅速な連絡体制を構築しており、日々の状況報告や悩み相談に丁寧に対応することで、保護者との密な情報共有と信頼関係の構築に努めています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0			

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		職員の経験や専門性の違いもあるため、事業所内での勉強会を重ね、チームとして一貫性のある専門的なアドバイスができるよう平準化を図ります。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	月1回のオンライン懇親会や保護者交流会を通じて、専門的な知識の共有や交流の場を提供しています。また不定期ですが、きょうだいで一緒に参加できる企画を開催しています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	7	0		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	年2回の避難訓練を実施し、安全確保に努めています。また、安全計画についてはLINE公式のリッチメニューからいつでも確認できる体制をとっています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1		毎年BCPを用いて非常災害発生時の訓練を行っています。訓練の様子などをSNSやホームページなどで公開できるよう努めます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	1		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0			

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 じらふ長居

公表日 2026年 3月 4日

利用児童数 28

回収数 28

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏えた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	2	0	0	寝転がってオモちゃ広げて遊んでいるため、スペース十分だと思います。少し狭いかなとも思いました。少しだけ狭い？ スペースは十分だと思いますが、トイレから部屋に入るときに死角になる場所があるので、ぶつかるかと危ないと感じたことはあります。広さはいいとおもいます。いつも遊びながら楽しく子どもたちが療育しています。	スペースの確保については、こどもの動線や活動内容に応じたレイアウトの工夫を継続します。特にご指摘いただいたトイレ付近の死角については、安全確認のための鏡の設置や職員の見守り配置の再検討を行い、衝突事故の防止を徹底します。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	27	0	0	1	未就学児2人に対して大人の人数多いためありがたいです。とても厚手サポートいただいております	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	2	0	0	じらふさんの構造化とても参考になります。視覚的な補助がありスリキリしています。いつもリーダーで一人が子どもたちに指示をし、ほか2人くらいはサポートで子どもたちや観と交流しながらされています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	27	1	0	0	物の配置が子どもにも分かりやすく絵で分かりやすくなっています。お部屋もキレイでおもちゃなどもきちんと別部屋に置きいろいろ工夫されていると思います	今後も視覚的な支援（PECSや写真・絵カードの活用）を維持・向上させ、清潔で心地よい環境づくりに努めます。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	1	1	0	充分されている個人を見てくれている感覚があります。前出来なかったことが出来るようになったりすると褒めて下さり、本人もやる気になってきているように思います。担当者会議を提案していただき、実際に顔を合わせて話す機会を作れてありがたかったです。子供の特性にあった声の掛け方を教えていただけと思っています。ペグスを取り入れ、研修動画や観へ今は一だったから対応しました。や〜で折り返いつけて次の活動にうつりました等説明がわかりやすいです。	5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）に基づく包括的なアセスメントを今後も徹底し、個々のニーズに応じた「オーダーメイドの支援」を継続します。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26	0	1	1	思います。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	1	1	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1	1	2	毎回新しいプログラムなので新鮮でした。お家でも遊びに使えるような課題があったりして子供も楽しんで取り組んでました。	お子様の経験を広げるための創意工夫を継続します。「遊び」を通じた豊かな感性と創造性の育成に重点を置き、家庭生活にも繋がる支援を提案していきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	5	6	9	デイサービスや地域のこども会は活動イベント多いので自然と顔を覚えてもらっています。施設をででの活動はないですが、施設内で子どもたち同士が楽しくいつも療育しています	現在、施設外での活動機会は設けておりませんが、地域との繋がりは大切に考えております。代わりの取り組みとして、月1回の「子育て広場」や、ご兄弟も参加できる不定期イベントを開催し、交流できる場を提供しています。また、法人内の別事業所からの地域イベントなどのお知らせも、みなさまに共有させていただいております。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	1	0	0	いつも丁寧に説明してください	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27	0	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28	0	0	0		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができてきていると思いますか。	28	0	0	0	親としての今後の不安や、今抱えている悩みも聞いて下さるので助かっています。毎回利用時に相談出来るのと、LINEでも連絡出来るので助かっています。月1回の講座を受けて特性について知識を深く教えていただけただけで、子供との関係性が良くなったと思っています。いつも悩み事を、聞いてくださり、わかりやすくアドバイスしてくださり、いつも心強いです。	今後もLINEを活用した迅速な情報共有や相談体制を維持し、保護者の皆様が安心して下さるよう、丁寧なコミュニケーションに努めます。
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27	1	0	0	具体的なアドバイスやサポートグッズの提案とても助かります。職員によって、保護者に対する助言（アドバイス）の支援（の質）に偏りがある。相談に対しては、共感だけではなく、具体的な方法や考え方も助言してもらいたい。	職員の経験差による助言の偏りを改善するため、勉強会を重ねて全員の専門性を高めてまいります。即答が難しいご相談は一度チームで相談し、事業所として一貫した丁寧なお返事をさせていただきます。お気軽に寄り添いながら、5領域に基づいた具体的な取り入れやすい助言をがてきえるよう努めます。	
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	1	0	0	毎回相談しますが否定された事は一度も無いので、とても安心して話をすることが出来ました。		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	4	0	5	イベントに参加出来ないの分かりません。	毎月末にオンライン懇親会を開催しています。不定期ですが、長期休暇にきょうだい児も参加できるお茶会イベントも実施しています。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24	1	0	3	LINEのやり取りも迅速に対応していただけています。16.に同じ	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	0	0	0	LINEを使って、何かあればすぐ相談に乗って下さります。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	2	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	0	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	1	1	10		LINE公式のリッチメニュー内に安全計画を掲載しております。また訓練の様子をSNSにて発信させていただいております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	4	1	13		年二回の避難訓練や避難経路の確認、その他適宜訓練を実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	0	1	3		LINE公式のリッチメニュー内に安全計画を掲載しております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1	2	7	親子で参加しているので必要がないです	親子で通所していただいている為、その場ですぐに説明と対応をさせていただいております。お子様の前で話しくいなどがあれば、別途時間を設けお電話やLINEにてお伝えさせていただいております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	27	1	0	0	行き来もなく、毎回来しく通っています。いつも楽しみにして通っています	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	1	0	1	キリンの学校行くよ、と伝えるとすんなりいうことを聞きます”今日はオヤツこれ持って行くかな、オヤツの前に遊びたい、等、楽しみにしている言葉をたくさん聞きます。親と一緒に勉強出来るのが嬉しいみたいです。子どもは、遊び感覚で楽しみにしています	
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	2	0	0	いつも子供の成長を助けて下さりありがとうございます。感謝しています。親として何が出来るかわからないことが多い中、通い出してから具体的などうする、というご助言やアドバイスを頂き、大変ありがたいと思っています。来年もお世話になります。引き続き宜しくお願いします。とても安心して通うことが出来ました。正直に言うと親子で練習は必要なのかなど少し疑問もありつつ通い始めましたが、特性を理解してからは生活もしやすくなったのでとても満足しています。とても満足しております。通所させていただいてからの息子の様子良くなり、周りの先生やお友達のお母様より凄く変わって羨ましい！とお声もいただきました。まだまだどころも沢山ありますが、教えていただいた事を家、園、学校で少しでも活かせるようにしていきたいです。毎日沢山のアドバイスをいただき本当に感謝しております。とても満足しております。	お子様が安心感と喜びを持って通えていることを大変嬉しく思います。皆様からの信頼に応え続けられるよう、今後も安心して通っていただける環境づくりに努めてまいります。

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人ライフサポート協会 じらふ長居		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化された環境と視覚的支援の徹底	<ul style="list-style-type: none"> PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)や写真、絵カードを活用し、子供にとって分かりやすく、清潔で心地よい空間づくりを徹底しています 	5領域に基づく支援の継続と発展：個々の特性に応じた「遊び」を通じた豊かな感性と創造性の育成を重点的に行い、家庭生活にも繋がる支援案を積極的に提案します。
2	手厚い人員配置と専門的な個別支援	<ul style="list-style-type: none"> 適切な職員配置(28名中27名が「はい」と回答)のもと、5領域(健康・生活・運動・感覚・認知・行動・言語・コミュニケーション、人間関係・社会性)に基づく包括的なアセスメントと「オーダーメイドの支援」を行っています。 	視覚的支援の質の維持向上：現在のPECS等の活用を継続し、お子様がさらに見通しを持って活動できるよう環境整備を維持します。
3	迅速で丁寧な保護者との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> LINEを活用した迅速な連絡体制や、月1回の講座、オンライン懇親会を通じて、保護者の悩みやニーズに寄り添う支援を継続しています 	情報共有体制の維持：LINEを活用した迅速な相談対応を継続し、保護者との共通理解を深める体制を維持します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内環境における安全面の死角	トイレ付近の動線に死角があり、子供同士が衝突するリスクがあります	安全対策の強化(物理的環境の改善)：死角となる場所に職員の見守り配置を再検討することで衝突事故を未然に防ぎます
2	職員の経験差による助言内容のバラつき	相談に対する具体的な助言や提案において、職員の経験や専門性の違いによるバラつきが一部で見られます。	職員研修による専門性の平準化：事業所内での勉強会を重ね、どの職員でも5領域に基づいた一貫性のある説明ができるよう、専門性の向上を図ります。
3	非常時マニュアル等の周知不足	事故防止や避難訓練に関する計画について、保護者の「わからない」という回答が比較的多く、周知方法に課題があります。	安全計画・マニュアルの周知改善：LINE公式のリッチメニューへの掲載など、保護者がいつでも安全管理体制を確認できるよう、情報発信の仕方を工夫します。